

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471000253		
法人名	社会福祉法人長茂会		
事業所名	グループホームわらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦古里の上4689-1		
自己評価作成日	平成25年8月25日	評価結果市町提出日	平成25年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2471000253-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2471000253-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 9 月 24 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事や菜園など、役割を積極的に持って頂けるよう、寄り添ったケアに努め、一人ひとりの趣味嗜好を理解することに力を入れています。また、地元の祭りや催し物への大人数での外出だけではなく、思い出の場所やご自宅への故郷訪問など個人単位で外出を行い、家族または知人の方が気軽に面会出来る雰囲気作りを行うことで、馴染みの人や場所とのこれまでの繋がりを大切にする、お手伝いをさせて頂いております。環境面では、常に笑顔の絶えない明るい環境の中で生活して頂けるよう心掛け、尾鷲湾を眼下に望む周りの自然を生かし、四季折々の景色を楽しみながら、自然を肌で感じ取る事の出来る、生活を送って頂くことが出来ます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、居室からの眺めもよく、四季折々の変化を楽しめる所にある。穏やかに安心して生活が出来るように、理念の「自分の親として」を念頭に置き、利用者一人ひとりの思いと絆を大切にしながら、利用者職員は笑いの絶えないケアを目指している。法人全体のお便りが月1回発行され、行事報告や新人職員の紹介などがされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の親(かけがえのない人)として」、やさしさ思いやり、尊敬の心を常に念頭におき思い出の場所や地域の祭り、ドライブや食事会など故郷での生活や人との繋がりを大切にしていく。	ホームの理念「自分の親として」を職員間で共有し、また、地域の中での繋がりを大切にし、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、法人主催の地域交流運動会を通じ交流を図っている。	地域の祭りなどの行事見学、法人主催の地域交流運動会、清掃ボランティアへの参加をとおして地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体での介護研修や地域の中学校の福祉体験学習、介護者対象の介護教室などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、ご利用者やサービス以外にも防災や地域の情報など意見交流を行い、介護福祉に対しての相互協力を図っている。	運営推進会議は2か月に1回開催、会議では利用者へのサービス状況や地域の情報も含め報告をし、意見交換がされている。会議では事業所側の都合ばかりではなく、会議出席者の意見を聞きだす努力がされている。メンバーは、市役所、地域包括支援センター、民生委員、地区代表、家族代表となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は勿論、市や地域包括支援センターや民生委員の方々などに連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の認知症の勉強会、介護保険の更新時に情報交換をするなど、市も事業所も積極的に協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎年4月に発足し、身体拘束等の排除、マニュアルを作成し共有している。日中は玄関の施錠はせず、のびのびと生活出来る環境を作っている。	身体拘束廃止委員会を毎年4月に、メンバーを替えて、排除マニュアルを利用し研修を行い、すべての拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論、言葉による精神的虐待についても、職員同士が注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用はありませんが、各フロアに権利擁護のパンフレットを設置し、職員への研修や勉強会などへの参加を通じて、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学などを行い、契約の際には、家族や親族の方々に十分な説明を行うことで、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは、普段の会話や様子に留意し、家族等の意見や要望は、面会や電話、定期的な連絡などで採り上げています。また意見箱を玄関に設置している。運営推進会議の中で意見交流を行い反映している。	家族の意見・要望は、面会時や電話などで積極的に聞き出す努力をしている。職員は日常の会話の中で、利用者の希望を聞き取る工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りにおいて、意見や提案を交わし運営に反映させている。何でも記入出来る申し送りノートに記入している。	職員会議での意見交換や、申し送りノートに意見要望を記入するなどをして、職員の意見・要望を反映させている。例えば、福利厚生面(有給休暇など)など改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇願など柔軟に対応し、職員間でのアイデアや提案を代表者会議で検討することで、職員がやりがいや、向上心を持って働ける職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修は勿論、研修を受ける機会があれば、出来る範囲で参加し、また職員間で共有しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や、同じ地域の同業者への、施設見学受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で、出来る限り多くの要望や情報を聴き取りコミュニケーションを大切に、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際、本人の希望は勿論、家族の思いも取り入れ、介護介護方針を決め共有し、定期的及び随時の連絡を通じて、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人には複数の介護サービスがあり、事前調査や担当者会議の中で、本人の心身の状況や希望を聴き取り、本人に本当に必要なサービスを本人本位で決定できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の「自分の親として」の心を、常に念頭に置き共に暮らすものとして、「喜び」「楽しみ」「不安」などを共感でき、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の行事への参加や面会し易い雰囲気作りに努めている。また、本人とご家族を交えた意見交換に加え、定期的な連絡を行い、ご利用者の出来る限り新しい状況を、ご家族と共有出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	尾鷲市内だけではなく、海山町にもドライブに出掛け、出来るだけ多くの馴染みの人や場との関係が途切れない様に努めている。	行きつけの美容院、自宅付近での買い物、知人の来訪などこれまでの関係が途切れないように支援している。又、併設のショートステイの利用者とも交流を深め、新し馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや菜園での野菜作りの作業や、収穫した野菜を、皆で調理して食卓に並べるなど、共同生活を楽しくて頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡、又病院や施設からの相談においては、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ヒアリングで一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努め、本人との日常会話や面会の方との、意見交換により集めた情報から、本人視点に立って検討を行っている。	センター方式を利用したり、家族の話や日常の言動などを参考にしながら、利用者の意見・要望を把握し、利用者一人ひとりに合ったケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査によるアセスメント以外に、本人はもちろん面会に来られた知人、友人、親族の方々からの情報を多く得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握はもちろん、毎日のバイタルチェックによる健康管理、役割を持って頂きやすくするため、有する力の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「自分の親として」の心を常に念頭におき、本人の意向や変化を把握し、家族との定期的・適時の連絡で得た意見を反映し、全職員が対応を話し合い、介護計画を作成している。	担当者会議で職員同士が意見を出し合い、3か月に一回モニタリングを行いケアプランを作成している。家族には定期的な連絡で利用者の状態を報告をし了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録を残す事により、それをもとに気付いた事や改善方法などを話し合い、申し送りノートを活用し実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	故郷訪問や美容院、病院への送迎及び付き添い、自然に囲まれた環境を十分に活用し、体で四季を感じとれるよう、散歩やドライブを行い、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員立ち会いの防災訓練や老人会や各ボランティアによる慰問、運営推進会議による地域の方々との意見交流を行い、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療を受け入れるよう支援している。	利用者・家族と入居前に話し合いを行い、希望に応じた医療機関を利用している。受診は職員が支援している。又、週一回協力医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人診療所により、週に一回往診があり、看護婦からアドバイスを貰う事で、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を怠らず、利用者が安心して治療出来るよう、頻繁に見舞いに行き、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人や家族の意向を聞き、職員全員が方針を共有し、定期連絡に加え、適宜連絡を家族に行っている。	原則看取りは行われなかったこととなっているが、入居前に本人・家族の意向を聞いている。マニュアルも作成されていて、出来ること・出来ないことの説明もされている。昨年一人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護研修の参加や、事故緊急時の対応マニュアルを作成し、皆で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に加え、消防署立ち会いの避難訓練、地域合同、法人合同の防災訓練を行っている。非常食など常備している。	地震・火災などの災害時に備え、毎月一回の各種訓練を行っている。また、消防署立ち会の避難訓練や地域合同訓練にも参加し、全利用者が安全に避難できるように職員が利用者とともに訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保の為、失敗や異常行動の際には、さりげないケアを心がけている。	利用者の失敗などは咎めることなく、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、又、特に排泄時には充分気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決まったレクリエーションやクラブを行わず、複数の物から選んで頂くことで、自己決定を尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションやクラブの種類、食事や起床の時間を複数用意することで、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧はもちろん、地域の理容店が毎月来所しており、利用して頂く事が出来る。また希望があれば、馴染みの美容院まで送迎付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を複数献立にし、選択メニューを導入している。菜園の収穫時には、漬けものなど昔ながらの品を作り召し上がって頂き、本人の意思を尊重しつつ、出来る範囲で準備や片づけをして頂いている。	菜園で採れた野菜なども利用した食事は、管理栄養士の献立で、特に昼食は複数のメニューとなっている。時には市内の回転寿司なども利用した外食も行われている。利用者は、職員と一緒に買い物に出かけたり、準備や片づけなど、できることでお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに関しては栄養士が作成し、それを元に職員が本人にあった形状にしている。また自分で、水分摂取出来ない方などには定期的に水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前のうがいや食後の歯磨きを推進しており、見守り介助を行っている。自分で困難な方は、職員が口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけやトイレ誘導を行い、便器に座って気持ち良く排泄できるように、自立支援を行っている。	排泄表を利用し、利用者一人ひとりのパターンを把握し、排泄の自立に向けたトイレ誘導をしている。入居してから改善された利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による管理を行っており、水分量の調整や運動等を取り入れ、場合によっては医療機関へ相談し、服薬などによる対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が出来るよう声かけを行っている。	希望があれば毎日入浴が出来るようにしている。最低週3回を目標に、入浴を拒否する利用者には根気よく誘導している。お風呂は檜湯、菖蒲湯、柚子湯などもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者により安眠、休息の時間にはばらつきがあり、眠れないご利用者に対しては、なるべく眠剤に頼らず、白湯など飲みながらお話をするなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者全員の服薬説明書をファイリングし、職員がいつでも情報を共有出来る様にしている。状態に変化があれば、直ぐに医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や掃除・洗濯など、それぞれ得意な事を、本人の意思で行って頂き、カラオケやレクリエーションや園芸など、その人に合った物を楽しんで頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然に囲まれた環境を活かして、普段から散歩はよく行っている。また季節の花の観賞や食事会にも、ドライブをかねて出掛けて頂ける様支援している。	四季折々の自然に囲まれた付近の散歩や、神社の祭礼など地域のイベントなどへ出掛けしている。	利用者の介護度が高くなるなど、外出が困難な利用者一人ひとりの思いに副った外出支援を今後も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望が有れば、家族と相談したうえで金額を決め、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に使用出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには出来る限り季節の草花などを置き、四季を感じて頂ける様努めている。また、テレビの音量、カーテンの開け閉めなど、共有空間作りを工夫している。	居間(食堂)は明るく、テーブルなどに花が置かれ、室温にも気を配っている。居間のテーブルで利用者と職員がカルタやカラオケを楽しんでいる。廊下にもソファやぬいぐるみ人形が置かれ、雑談が出来るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などを各所に設置し、ホールから離れた居室以外の場所でも、くつろいで頂いただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を、本人や家族の希望にそった配置を心がけている。	居室は明るく、ベランダあり、眺望が良い。持ち込みが自由になっていて、使い慣れた家具など利用者の希望に副った物が持ち込まれ、安心して過ごせるようにしている。中には、位牌を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレや食堂までの距離に配慮した部屋割り、家具の配置などをご利用者や家族と相談して決め、自立した生活が送れるよう工夫している。		